

## シンプル生理学 改訂第8版 第1刷 正誤表

下記の箇所に誤りがありました。謹んでお詫びし訂正いたします。

頁	行, 箇所	訂正前	訂正後
p13	本文 上から2行目	約 600 兆個	約 <u>60</u> 兆個
p32	図 2-25 タイトル	光遺伝子学により	<u>光遺伝学</u> により
p26	「表 2-1 末梢神経線維の分類」		別紙①に差し替え
p36	「表 3-1 感覚の種類」 「深部感覚」の行	ゴルジ腱紡錘	ゴルジ腱器官
p38	「表 4-1 筋肉の分類とその特徴」 「筋の構造」の行		「横紋」の模式図と「横紋, 合胞体」の模式図を入れ替える
	「表 4-1 筋肉の分類とその特徴」 脚注として追加		各筋肉の特徴については, p56, 図 4-27 として図示した。
p55	本文 上から5行目	消化管, 子宮, 膀胱, 尿管, 卵管, 輸精管 などのような	消化管, 子宮, 膀胱, 尿管, 卵管などのよ うな
p55	本文 下から4行目と5行目	徐派	徐波
p56	本文 上から10行目	伸展刺激によりか開口し,	伸展刺激により開口し,
	本文 上から15行目に追加		流入した $Ca^{2+}$ が小胞体のリアノジン受容体 を介して $Ca^{2+}$ 放出する機序もある。
	「図 4-27 骨格筋, 心筋および平滑筋におけ る活動電位と収縮張力の関係」		別紙②に差し替え
p59	本文 上から3行目	脊椎管	脊柱管 (脊椎管)

p60	本文 下から2行目	これを筋節（サルコメア）という	これを筋節（ミオトーム）という
	本文 下から11行目の見出し	3. 皮膚節と筋節	3. 皮膚分節と筋分節
p62	「表 5-1 脳神経とその機能」 「Ⅶ」 「顔面神経」 「内臓求心性線維」 の 行, 「機能」 の列	舌の前 2/3 の味覚	舌の前 2/3 の味覚, <u>軟口蓋の味覚</u>
p80	「図 6-25」 「半規管膨大部稜 (A.)」 の図中 文字	ゼラチン様物質 (耳石膜)	ゼラチン様物質 ( <u>クプラ</u> )
p83	本文 上から1行目	そのうちでもにおいのある物質は	そのうちでもにおいの <u>元になる物質 (におい分子)</u> は
p83	本文 上から9行目	約 450 万種と膨大であるが,	先述したように膨大な数があるが,
p84	本文 上から 10~11 行目	これらは 4 基本味とされてきたが, 最近 「うま味」 が認知され, 5 基本味とされ た.	<u>従来これらを 4 基本味としていたが, 後に 「うま味」 が加えられ, 5 基本味となった</u>
p84	本文 上から 13~14 行目	新しい研究では苦みは舌根部よりも舌尖部 で閾値が低いことがわかった. うま味につ いてはいまだ不明である.	<u>2000 年以降の研究により舌全体の味蕾が 5 種の味覚受容器を持つ味細胞を持っている ことが明らかにされた.</u>
	本文 下から 1~2 行目	新皮質中心後回基底部の顔面からの皮膚感 覚感受部位に至る (図 6-33) .	<u>新皮質中心後回の体性感覚野の下部に接し た部位にある一次味覚野 (ブロードマンの 43 野, 図 9-14 参照) に至る.</u>
	「図 6-33 味覚の伝導路」 の図中文字	大脳皮質 半月神経節	大脳皮質 <u>一次味覚野</u> <u>下神経節</u>
p86	本文 上から 14~15 行目	A δ 線維である.	A δ 線維と無髄の C 線維である ( <u>図 6-36, 表 2-1 参照</u> ).
p88	図 6-38 「延髄」 の部分	楔状束核	<u>薄束核</u>

		薄束核	楔状束核
p94	本文 下から 5 行目	皮膚節	皮膚分節
	本文 下から 5~6 行目	皮膚節の規則	皮膚分節の規則
p97	表 7-2 $\alpha_2$ 受容体の特徴	Gi, cAMP ↑	Gi, cAMP ↓
p106	本文 下から 2 行目	Ⅱ, Ⅲ, Ⅳ群以下の細い線維で	Ⅱ, Ⅲ, Ⅳ群の細い線維で
p108	本文 上から 3 行目	(図 8-6 参照) .	(図 8-5 参照) .
	「図 8-7 バビンスキー反射」 B. のタイトル	B. 錐体外路障害	B. 錐体路障害
p111	本文 上から 3 行目に一文を追加		両側前庭迷路機能障害者では、床面が傾いても前庭迷路反射が起こらないので、身体の平衡と頭位の回復ができず、転倒してしまう (図 8-13b) .
p115	本文 上から 8 行目と 11 行目の冒頭	線状体	線条体
p133	本文 上から 9 行目	穿通枝を通して	貫通枝を通して
	本文 上から 12 行目	この機序に 1 章で述べた LTD 現象が	この機序に 2 章で述べた LTP 現象が
	「図 9-20 海馬の模式図」	穿通枝	貫通枝
p145	本文 上から 5 行目	まず核小体において	まず核において
p151	「図 10-16 視床下部ホルモンの構造と産生細胞の存在部位」 脚注	ペプチドは、左端が N 末端、右端が C 末端を表す。	この図ではペプチド配列は左端の C 末端から右端の N 末端に向かって示されている。
P213	本文 上から 5 行目と 6 行目	㊸消化酵素の分泌を行い、それにより異化を行う化学的消化 ㊹種々の消化管の運動による物理的消化	㊸消化管から分泌される消化液に含まれる酵素作用により分解する化学的消化 ㊹種々の消化管運動により分解する物理的消化

p219	本文 下から 9～10 行目	下腹神経と陰部神経は内・外肛門括約筋を収縮させ、骨盤神経は内肛門括約筋を弛緩させる。	下腹神経と陰部神経の興奮は内・外肛門括約筋を収縮させ、骨盤神経の興奮は内肛門括約筋を弛緩させる。
p268	本文 上から 16 行目	血管の直径の 4 乗	血管の半径の 4 乗
p287	本文 下から 3, 4, 6 行目	機能的残基量	機能的残気量
	「図 16-9 肺と胸壁の圧-容量関係」の図 中文字と解説文	機能的残基量	機能的残気量
p293	「図 16-14C ヘモグロビンの酸素解離曲線 に対する血液の温度の影響」	10° , 20° , 38° , 43°	10°C, 20°C, 38°C, 43°C

(2025 年 4 月 株式会社南江堂)

表 2-1 末梢神経線維の分類

髄鞘	Erlanger/ Gasserの分類	直径 (μm)	伝導速度 (m/sec)	Lloyd/Huntの 分類	主な機能	
有髄	A	α	12~21	70~120		骨格筋の運動神経線維
					Ia	筋紡錘の一次（らせん）感覚神経線維
		Ib	ゴルジ腱器官の感覚神経線維			
		II	皮膚の触圧覚の感覚神経線維 筋紡錘の二次（散形）感覚神経線維			
	γ	4~8	15~40		筋紡錘の運動神経線維	
	δ	1~6	5~15	III	皮膚の温度覚・痛覚・触圧覚の感覚神経線維, 皮膚の自由神経終末からの感覚神経線維	
	B	1~3	3~14		自律神経節前線維	
無髄	C	0.2~1.0	0.2~2		自律神経節後線維	
				IV	皮膚の温度覚・痛覚の感覚神経線維	

(彼末一之ほか編：やさしい生理学，第7版，南江堂，2017を参考に作成)

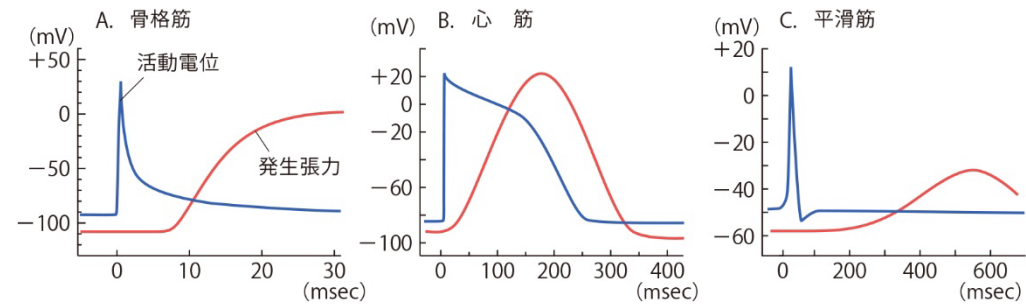


図 4-27 骨格筋, 心筋および平滑筋における活動電位と収縮張力の関係  
(A: A.L.Hodgkin と P.Horowicz, 1957 より, B: C.M.C.Brooks ら, 1955 より, C: J.M.Marshall, 1962 より)